

「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話連絡先0282-22-7079(増田)

Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp

HP：太平山麓九条の会で検索



167号

2021年5月28日発行

5月3日
憲法記念日

「憲法守れ」の思いを込めて スタンディング！

5月3日は憲法記念日。現憲法が施行されてから74年が経ちました。太平山麓九条の会ではコロナ禍ではありますが、「憲法守れ」の思いを込めた30分間のスタンディングを企画しました。当日は幸い晴天に恵まれ、31名の方の参加で実施することができました。

今、憲法をめぐる国会の動きは危険な様相を呈しています。国民の関心の多くがコロナ感染拡大防止に集中している中、拙速に制定する必要もない憲法改定を前提にした「国民投票法改正案」が、ほとんど審議がなされないまま衆議院で可決し、現在、



参院憲法審査会で実質審議に入りました。

考えてみると憲法は空気のような存在になっています。コロナ禍でも憲法の条項が私たちの生活や平和を守る盾になっているのですが、案外気づいていない気がします。感覚を鋭くして、私たち国民の平和や生活を危険にさらす国の危険な動きを監視して、憲法改悪反対の声を大きくしていきましょう。

未来へつなごう 平和コンサート

大平町 かかしの里



演奏者 「トリオ・クメタナ」

ビオラ・ヴァイオリン 桑川吉見

ピアノ 田中純子

ヴァイオリン 桑川正子



4月25日、70名余りが参加し、新緑の山々に囲まれて「平和コンサート」を開催しました。コロナ禍で閉塞感、自粛生活が続く中ですが、自然の贅沢な空間で思いきり音楽を堪能し、晴れやかな清々しい思いに浸ったのではないのでしょうか。



「やっぱり生演奏っていいなあ」

金坂 雅子

「トリオ・クメタナ」さんの演奏が始まった途端、自然にからだリズムをとっていました。ここ一年以上もコンサートや生演奏にふれることがなかったのですが、なんだか心が喜んでる感じがしました。

前日までの天気予報では雷雨になりそうとのことでしたが、心配は全くなし。広がる野外ステージは、満開の菜の花に包まれ、時折タンポポの綿毛がふんわりと飛んでいました。入口での消毒やマスク着用で感染予防をしたうえ、開放された芝生の上で「やっぱり音楽っていいねえ」を実感できました。事前の会場準備、プログラムの作成、感染予防対策、当日の運営に関わって下さった方々はさぞ大変だったことと思います。前半「ウイーンはいつもウイーン」から「シルクロードのテーマ」まで8曲、後半「鳥の歌」から「平和に生きる権利」までの7曲。野外でも音響が素晴らしく、演奏がより一層届いたと感じました。誘い合って参加した近所の方々とも「よかったねえ」と話しながら帰りました。「平和であることと音楽の楽しさ」を深く感じました。



「平和コンサート」によせて

北島 寿美子

「太平山麓九条の会」の名にふさわしく、緑に包まれた太平山麓の「かかしの里」での平和コンサート。野外でのコンサートでしたので、空模様が心配で傘まで用意しましたが、日傘に変わるほど天気恵まれました。

コロナ禍で一年余りに続く閉塞感に包まれていましたが、澄んだ空気と心地よい演奏に、何と「ぜいたく」な時間をいただいたことでしょう。

クラシックからタンゴ、アニメソングまで豊富なプログラム、そして平和コンサートならではの「わたしのやめて」の詩の朗読は心に響くものでした。また、カザルスの「鳥の歌」にはとても魅了され、さらに深く知りたいと思い調べたところ、カザルスはチェロの演奏だけではなく、指揮者としても、作曲者としても、教育者としても優れた業績を残して、それにとどまらず、動乱の20世紀の混乱の中で、スペインのフランコ独裁政権への抵抗をはじめ、反ナチズム、反ファシズムの象徴的な存在として、音楽家の社会的・政治的な責任を全うするために、平和への努力を最後まで貫き通した人です。

カザルスは音楽には人々の心に平和を呼び起こす力があることを教えてくれた人とも記されていました。

このようなコンサートを企画・開催していただき本当にありがとうございます。そして、「トリオ・クメタナ」の更なる活躍を期待します。



最後に演奏された「平和に生きる権利」について

「平和に生きる権利」
ビクトル・ハラ 詞／曲

平和に生きる権利・・・
ベトナムの地から
全人類の心を打った
詩人ホーチ・ミンよ
たとえどんな大砲でも
きみの稲田の
畦から消せまい
平和のうちに
生きる権利を
(歌詞の一部を紹介)

ビクトル・ハラ

1970年、チリでアジェンデ大統領の人民連合政府が生まれる。幾多の困難を抱えながらも、平和裡の世直しが進められつつあったが、絶えず手段を講じて脅かそうとする右翼の影に抗して、ビクトル・ハラを初めてとする一群の歌手たちの歌声は、人民連合政府の理想を励まし続けた。しんからの抒情詩人であったビクトル・ハラは、愛を歌い、平等を願い、不正を訴え…その報いとして虐殺された。

- ◆スタンディング 6月9日(水) 市役所前 6月19日(土) カワチ薬品前交差点 午後4時～
- ◆スタッフ会議 6月10日(木)・25日(金) 市民交流センター 2階会議室 午後1時半～